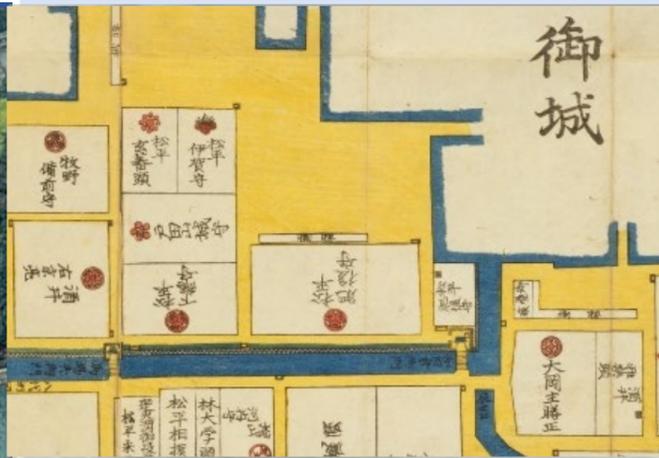


# 継続と新たな発展 ～CONTINUITY～



## 和田倉噴水公園

江戸から現代までの変遷



環境省 自然環境局皇居外苑管理事務所  
〒100-0002  
千代田区皇居外苑 1-1  
TEL 03-3213-0095  
<https://www.env.go.jp/garden/kokyogaien/index.html>

## 江戸

江戸のまちを、日比谷入江の埋め立てや外濠の整備など江戸城の建設とまちづくりが一体的に進められ、和田倉噴水公園の位置は、日比谷入江内に位置していました。

「和田倉」と呼ぶようになったのは、慶長12年頃からと言われており、名の由来は、海の名「わた」からきたもの。日比谷の入り江がここに及び、その入江にのぞんで倉がならんでいたため、あわせてこの地を和田倉と呼ぶようになったとされています。(一般財団法人国民公園協会HPより)

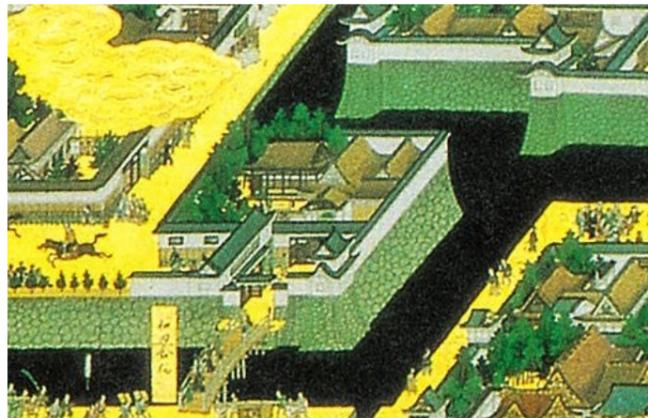


## 江戸～大正～明治

和田倉噴水公園がある地域は、江戸時代には、「和田倉御門内」あるいは「馬場先御門内」、「西丸下」などと呼ばれていました。

江戸幕府にとって重要な地位をしめた大名の居住地であり、この地域の開発は、家康入府後すぐに進められたと考えられ、譜代大名の屋敷として割り与えられていました。

江戸から明治まで、この土地の変遷は、大名屋敷、厩(うまや:馬を飼育するための小屋)等を経て、明治には内務省図書館が設置されました。

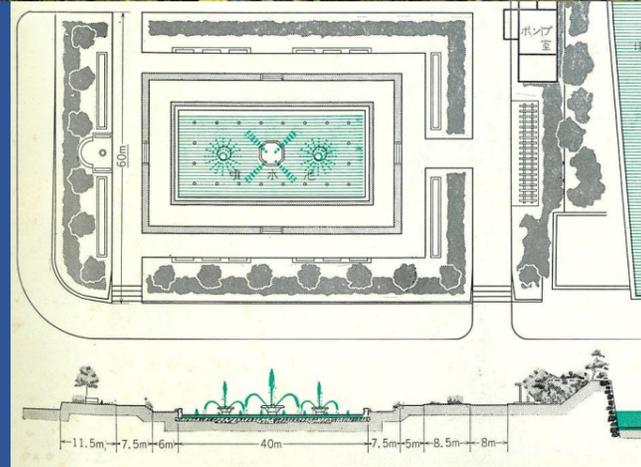


## 昭和

昭和34年4月に、皇太子殿下と美智子妃殿下はご結婚の式典をあげられ、当日元首相吉田茂氏を会長とする財団法人皇太子御結婚記念大噴水建設委員会から、大噴水を皇居前広場に建設する計画が発表されました。

昭和35年4月に、日本国立公園協会副会長であった田村剛博士から設計プランが明らかにされ、5月から土木工事を間組が、機械、動力照明工事一式を日立製作所が担当しました。

昭和36年4月に、皇太子殿下ご夫妻のご結婚2周年記念日を期して、盛大な竣工式を行い、一般公開されました。



### 【造成・設計意図】

大噴水は、田村剛博士によると「日本風のデザインと技術を生かしたもの」、「周囲の調和を破らないように華れい、豪華な感じではなく壮重な感じとするため、単純なデザイン。つまり全部直線と円だけ」として考案され、「日本色を豊にするために、水盤などにも日本独自のデザインである従来の石材工芸品の手法を活かしてみた」と語っています。



## 平成

平成5年6月の天皇皇后両陛下の御成婚を記念し、再整備することとなり、平成5年7月「皇居外苑和田倉噴水公園施設整備に関する懇談会」が設置され、その再整備基本構想が検討されました。

同懇談会は、平成5年10月に報告書を取りまとめ、大噴水に加え、和田倉地区全体を一つの小公園区画として整備することが適切との観点から提言を行っており、これを踏まえ、噴水公園の整備を進めることとなりました。

和田倉地区が水と緑で構成された表情豊かで風格のある空間として、未永く国民の皆さんに親しんでいただけるよう配慮され、「継続と新たな発展」をテーマに再整備し、平成7年6月に完成しました。

### 【再整備の基本的な考え方】

和田倉噴水公園デザインテーマ

- ① 全体:継続性と新たな発展~CONTINUITY~  
緑に囲まれた、豊かな水の公園 皇居外苑の機能として安らぎと親しみ人と人、人と自然の接点:心豊かな交流
- ② モニュメント:「永遠」水によって生み出される球体=地球の永遠性  
訪れる人々の交流やさしいモニュメンタル性
- ③ 滝:「息吹」躍動感あふれる滝のスクリーン
- ④ 水流:「予感」静かに、たおやかに流れるせせらぎ
- ⑤ 架橋:「希望」軽やかな透明感を持つ、未来への期待
- ⑥ 大噴水:「再生」前記念噴水の新たな再生
- ⑦ 休憩舎:「対話」自然との対話・外周の樹々や水の流れと協調する、ゆるやかな曲線の大屋根、大断面集成材の木造構造体、解放感あふれるガラスのカーテン・ウォール

